

2022年1月5日

2022年 社長年頭所感

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社（東京都目黒区）の代表取締役社長 宮下功による「2022年 年頭所感」の要約を、下記の通りお知らせします。

記

はじめに

コロナ渦で2回目の新年を迎えることとなった。 昨年は、我が国において多くの方が2回のワクチン接種を完了し、その効果もあって国内での感染は落ち着きをみせている。 しかしながら、新たな変異種の出現によって、第6波への警戒感も高まりつつあり、予断を許さない状況が今しばらく続くものと思われる。 全世界へのワクチン普及と治療薬の開発、ウイルスの弱毒化などによって、一日も早くコロナ前の生活に戻ることを心より願っている。

ESGやSDGs、DXへの対応を着実に進める

長い時間軸でグループとして対応する必要があるものとして、ESGやSDGs、DXがある。 カーボンニュートラルや動物愛護、人権対応など、一朝一夕にはできないが着実に行動を起こし、対応を進めねばならない。 例えば、カーボンニュートラルについては、これまでも個別案件でのCO₂削減や環境対応を実施してきたが、将来に向けた定量的な目標値を定め、具体的な取り組みを推進すべき時期に来ている。 またDXについては、RPA導入や経費精算ツールの導入決定など、業務効率化に資する取り組みの成果が表れており、引き続きデジタルツールを活用した業務改善・効率化の取り組みを進めていく。 また、新しいビジネスモデルの構築や、新しい付加価値を生み出すDXの取り組みも検討したい。

将来の成長に向け「中期経営計画 2023」の強化ポイントを再認識しよう

昨年発表した「中期経営計画 2023」の中で、環境認識や事業機会を再定義し、それぞれに強化ポイントを掲げた。 将来の成長に向けた対応は、まだまだできていないことも多く、決して満足のいく状況にはない。 今一度、「中期経営計画 2023」の強化ポイントを再認識し、自身の業務執行につなげ仕事の質をより一層高めていただきたい。

本年のスローガン

1年を振り返ってみたとき、当たり前前かがり前かがりにできていないことが、まだまだ多かったように思える。 今年1年も改めて「当たり前前かがり前かがりにやりきる」ことに、いま一度真正面から向き合い徹底してほしい。 以上を踏まえ、本年のグループとしてのスローガンを以下とする。

「当たり前前かがり前かがりにやりきる」

～判断や行動を先送りせず、やるべきことを、迅速かつ的確にやりとげる～

以上

本リリースに関するお問い合わせ先	伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 総務部広報室 篠原、眞島 Tel:03-5723-6889 Fax:03-5723-2112
------------------	---